

令和7年度 第2回静岡市食育推進会議 会議録

1 日 時 令和8年2月2日(月) 午後7時00分～午後8時30分

2 場 所 静岡市役所低層棟3階 茶木魚

3 出席者

(委員)しずおか市消費者協会 青木良子委員、市民委員 上杉智世委員、
静岡市公立こども園園長会 岸聡美委員、静岡県栄養士会 久保田美保子委員、
静岡県立大学 桑野稔子委員、市民委員 杉浦元昭委員、静岡市校長会 築地豊委員
静岡市食生活改善推進協議会 渡邊良子委員 (五十音順) 計 8名

欠席:関東農政局 柏谷広樹委員、静岡市清水歯科医師会 河野重記委員、
清水漁業協同組合 薩川一義委員、清水農業協同組合 田島宏一委員、
静岡商工会議所 松浦高之委員、市民委員 山田祥子委員
静岡市静岡医師会 依藤崇志委員)

(事務局)保健福祉長寿局 山本局長、松下局次長

保健福祉長寿局健康福祉部健康づくり推進課 長田課長、大勝総務係長、桜井主任栄養士

4 傍聴者 なし

5 議 事

- (1) 第5次食育推進基本計画の策定を踏まえた第4次静岡市食育推進計画の中間見直し範囲について
- (2) 第4次静岡市食育推進計画 中間評価アンケート調査(案)について

6 報告

市の食育事業について(しずおかカラダに eat75)

7 会議内容

開会

保健福祉長寿局長挨拶

司会

それでは、早速ですが、【次第2】に入ります。ここからの会議の進行は、静岡市附属機関設置条例第6条第3項の規定により、桑野会長に議長をお願いいたします。それでは、桑野議長、お願いいたします。

議長(桑野委員)

それでは、ここからは、私が議事の進行を務めさせていただきます。円滑な議事の進行に、皆様、ご協力をお願いいたします。議事に入る前に、会議は公開としますが、よろしいでしょうか。尚、本日の会議の傍聴者はございません。

それでは、次第2 議事に入ります。

「(1)第5次食育推進基本計画の策定を踏まえた第4次静岡市食育推進計画の中間見直し範囲について」ですが、静岡市食育推進計画が、第4次の中間年度における見直しとなる中で、国の食育推進基本計画が第4次から第5次となることに伴い、静岡市の食育推進計画に、どの程度変化を加えるべきか。国の方向性をどの程度反映させるとよいか、委員の皆様にご議論いただきたく存じます。

それに先立ちまして、まずは、国の「第5次食育推進基本計画の構成案」について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料1の説明)

- 第4次食育推進基本計画(国)の課題抽出から第5次食育推進基本計画(国)の重点事項設定までの経緯について。
- 第5次食育推進基本計画 構成案の説明
 - ・第1章 食育の推進に関する施策についての基本的な方針
 - ・3つの重点事項は変更されたが、基本的な方針は第4次食育推進基本計画(国)より継続されている。
 - ・第2章 食育の推進の目標に関する事項
 - ・当市の目標は、国に準じて設定されているため(資料2-2)、国と同様の課題がある状態。
 - ・第5次食育推進基本計画(国)の構成案の中では、具体的な目標項目等について示されていない。
 - ・第3章 食育の総合的な促進に関する事項
 - ・7項目全て、第4次食育推進基本計画(国)より継続されている。
 - ・(2)取り組むべき施策の一部が変更されている。(資料中の赤字が第5次、灰色字が第4次)
 - ・第4章 食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
 - ・7項目全て、第4次食育推進基本計画(国)より継続されている。
- 計画策定のスケジュール・計画の中間見直しの方向性
 - ・第4次静岡市食育推進計画の基本方針は、第4次食育推進基本計画(国)の重点事項と概ねそろえた形で設定されている。
 - ・第5次食育推進基本計画(国)策定に合わせて、第4次静岡市食育推進計画の中間見直しを実施予定だが、計画の中間年度における変更をどの程度の範囲とすることが適切か、議論いただきたい。

議長(桑野委員)

ただ今、第 5 次食育推進基本計画の構成案について事務局より説明があったところですが、重点事項の1つに明記されるなど、今まで以上に学校や保育所等における食育の重要性が示されておりました。その中で、子供たちの食の乱れや健康への影響ですとか、農業等の生産現場の実態を知らない子どもが増えているとございましたが、静岡市の現状について、実際に学校やこども園の現場にいらっしゃいます静岡市校長会の築地委員、また、静岡市公立こども園園長会の岸委員にご意見をお伺いしたいと思います。それでは、まず築地委員お願いいたします。

築地委員

長田南小学校で勤務しております築地です。よろしくお願いいたします。

学校における食育の推進は、静岡市の学校給食課や学校給食センターが考えてくださり、非常に昔よりも献立に地産地消や郷土料理の紹介を献立に載せてくれたりしています。そして学校においては、給食委員が、給食センターから送られてくる献立の説明を校内放送で流して、「今日の献立は、こんな静岡のものが使われているよ。」ですとか、「こういう体にいいものがあるよ。」という紹介を毎日してくれています。

また、栄養教諭、栄養士の方が、年 6 回それぞれの学年のテーマにあった栄養の話や、栄養バランスをとることの大切さをそれぞれの学年の発達段階に合わせた授業をしてくださっています。日頃から食育に関することについては、そのような形で行っておりますが、家庭科や保健体育といったそれぞれの教科でも栄養について触れています。

さらに最近では、お茶のティーバッグを 6 年生に配るという取組がされております。そこに記された QR コードを読み込むと、そのお茶のティーバッグを提供して下さった農家さんの画像が出てきて、このお茶はこんな思いで作られたのだということを知る機会があります。先ほど「生産者と消費者の関係が希薄化」というお話がありましたが、そのような取り組みも行われており、以前に比べると食育に関することが子供たちに浸透しているのかなと思います。

一方で、懸念されることとしまして、給食指導について、私が小学校の頃は完食しないとダメだという指導がされていましたが、今はそのような指導はできません。野菜の残食が多いですが、嫌いなもの、苦手なものでも少しは食べましょうという形で指導をしています。そうすると、やはりなかなか食べない子が多く、野菜常日頃から残ってしまうという現状があります。

そして、国の第 5 次計画では、「学校等での食や農に関する学びの充実」ということで挙げられておりますが、現状、もう様々な〇〇教育が学校に入ってきていて、このようなものがどんどん入ってくると、学校としては結構いっぱいというのが本音です。現状として、既に市の方で十分取り組んでくださっているのです、このまま継続していくのがいいのかなと感じております。ありがとうございました。

議長(桑野委員)

ありがとうございました。それでは、静岡市公立こども園園長会 岸委員 お願いします。

岸委員

公立こども園でも毎月19日を食育の日として、どの園でも食育活動を行っています。

年度の初めに食育年間計画を立てていますが、各園で食育担当の職員を置き、それに基づいて年間通して食育活動をしております。

現在こども園では、30回以上よく噛むということを目指していますので、月末に「カミカミメニュー」を取り入れるなどの活動をし、6月の食育月間には、スルメを食べてみるなど+αの活動をしています。11月は、「和食の日」ということで、それに合わせて各園で計画を立てて子供たちに食の大切さを伝えています。

さらに、まだ公立園の3園のみですが、地域と繋がるというところでは、地域の農家さんにオーガニック食材を発注して、その野菜を使って給食を作るという取り組みをしています。有機野菜については、園の規模によっては、確実な収穫、発注という点において課題がありますが、昨年度2園での実施から今年度3園での実施と少しずつ増え、できるところから徐々に行っております。

緑茶に関しては、今こども園ではとても難しい点もあります。乳児は年間を通して麦茶を飲みますが、幼児も麦茶を好むお子さんが多いです。私たちは、やはり地域の食材としてお茶を飲んでほしいので、夏は麦茶ですが夏以降お茶に変えていますが、そうすると飲まないお子さんが多いです。急須のあるなし以前に、緑茶が家庭にない、家庭で飲まないというのが現状です。私たちもそのような現状を日々目にしていくなかで、課題と感じておりますので、次年度幼児クラスに上がる2歳児クラスあたりから、少しずつお茶の味に慣れてもらい、静岡の名産であるお茶をもっと園に取り入れようとしているところです。

あと、やはり実体験が子供たちにとって大事ですので、野菜を自園で育て、クッキング保育を行うということを大事にしています。目の前で収穫して、その日のうちに目の前で調理されたものを食べると、その美味しさ、香り、そういうものが子供の食べてみようとする意欲につながります。コロナ禍では、クッキング保育ができない面もありましたが、今は各園でできますので、そういうところに力を入れており、子供が心を動かし「食べたい」という意欲に繋がる食育体験を大事に行っております。

議長(桑野委員)

具体的なお話ありがとうございました。築地委員、岸委員ありがとうございました。その他、事務局からの説明について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

では、議事に移りたいと思います。

今回、第4次静岡市食育推進計画が中間年度での見直しとなる中で、国の第5次食育推進基本計画の内容をどの程度反映させると良いかということが課題だと思います。資料1「計画の中間見直しの方向性」の中にあります第4次計画の後期の部分をどうしていくか、2つ案があると思います。第1案は、国の方の7つの「基本方針」は第4次から変更がない点、静岡市の計画は、あくまで『中間見直し』である点を重視し、現状の3つの基本方針は大きく変えず、例えば「重点的に取り組む事項」として国の第5次食育推進基本計画の重点事項の内容を入れ込むという案。第2案は、国の方向性と合わせるための見直しという点を重視して、基本方針を国の第5次計画と全く合わせてしまうという案です。

委員の皆様としてはどのようにするのがよろしいと思いますでしょうか。この第1案と第2案の他に、良い案がありましたらそのご意見も頂戴したいと思いますのですが、いかがでしょうか。それでは、市民委員の杉浦委員いかがでしょうか。

杉浦委員

1つ分からないのが、静岡市が第4次の時に国は第5次、令和13年では、国が第6次で静岡市が第5次という数字がありますが、この数字には意味があるのかということがわかりません。数字の部分だけ見ると、静岡市がすごく遅れているようなイメージになると思います。特に問題がないのであれば、静岡市の計画は第4次の基本方針をそのままにして、内容の変更のみ行う方が、見直しというところでブレないかなとは思いますが、そこのところがちよっと気になりました。

議長(桑野委員)

ありがとうございます。

第6次、第5次という数字を合わせる必要はないかと思います。では、杉浦委員の場合は、先ほど申し上げた第1案の方でよろしいということでしょうか。

杉浦委員

そうですね。急に変わってしまうと、なぜ変わったのかという説明がつきにくいと思います。

議長(桑野委員)

ありがとうございます。他の委員の皆様で反対意見ですとか、何か他に良い案がございますか。それでは、静岡県栄養士会の久保田委員いかがですか。

久保田委員

私も今すごく悩んでいるところですが、やはり中間というところで方向性が急に変わるのはどうかと思っています。国が新しい方向性を出して来始めている部分を少し入れ込んだり、重なっている部分は見直したりするにせよ、やはり市としての計画という点からすると、今回は、あまり変えずに次の計画の時からある程度足並みを揃えるという方向が良いかなと考えているところです。

議長(桑野委員)

はい、ありがとうございます。ではもうひと方、市民委員の上杉委員をお願いします。

上杉委員

私も同じですが、やはり前期で目標を立てていますので、これをもう少し掘り下げながらも第5次の国の計画をうまく入れていくのが良いかなと思っています。

議長(桑野委員)

はい、ありがとうございました。他の委員の皆様も第1案の方でよろしいでしょうか。

各委員(異議なし)

議長(桑野委員)

それでは、第1案の方向で考えていくということで、よろしくお願いいたします。

それでは、次の議事に移ります。議事(2)「第4次静岡市食育推進計画 中間評価アンケート調査(案)」について、事務局より説明をお願いします。

事務局(桜井)

(資料2-1の説明)

- 第4次静岡市食育推進計画中間評価アンケート調査の概要について
- 食に関する意識調査について
 - ・「食に関する意識調査」は、毎年国で実施されている調査
 - ・国と方向性を合わせ、全国の状況と静岡市の状況の差を観察するため国の調査を基本に当市の中間評価アンケート調査(案)を作成した。
 - ・加えて、当市における経年変化を観察するため「第3次静岡市食育推進計画最終評価アンケート」の設問から、方向性を継続した設問をいくつか取り入れた。
- 第4次静岡市食育推進計画 中間評価アンケート調査項目の概要について
 - ・設問数の増加に留意し、国の設問にあるものでも取り入れていない設問もある。
 - ・内訳は、年齢や性別などの基本的な情報をきく設問が9問、国の調査と同じ設問が27問、国と類似の設問が5問、市独自の設問が11問で計52問。

(資料2-3の説明)

- 資料2-3は、65歳以上の方向けの調査票の案。65歳未満の方には、質問項目だけ記した質問票を送付し、記載のURL又は二次元コードよりWeb回答していただく。6~12歳は、評価指標に係る設問が問19までとなるため、Webフォームでは以降は非表示となる。
- 国と類似の設問については、当市の目標項目と整合性をとる形で、国の設問を少し変更した内容の設問になっている。
- 問22・23「緑茶」に関する設問
 - ・前回アンケートまでは、「茶葉」に限定した設問となっていたが、今後の方向性として、継続して「茶葉」に限定した目標とすべきか、飲む方法は問わず「緑茶」の推進としていく方が良いか、現状把握を目的とし、設問を変更している。

(資料2-4について説明)

○どのような指標で目標に対する評価を行うかを記した表となっている。

(資料2-2)

○アンケート調査以外のデータを現状値として参照するものが、表5にある8項目となる。

議長(桑野委員)

ご説明ありがとうございました。ただ今の説明について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。静岡市消費者協会の青木委員、何かございますか。

青木委員

このアンケートを自分でやってみました。問35「農林漁業体験に参加したことがありますか」という設問について、私はこの例にあるような農林漁業体験をしたことはありませんが、家庭菜園をしている場合は、農林漁業体験を「している」に入るといってよろしいでしょうか。もう1つ漁業体験について、個人的に主人が休日ごとに魚を釣ってくるので、それを調理しています。商業的なものに参加しているわけではないので、チェックをするか迷いましたが、その辺はどういう風に考えたらよろしいですか。

事務局(桜井)

農林漁業体験について、国の調査の方でもどの程度の活動が含まれるか特に示されてはいないものの、学校に向けたガイドライン(教育ファーム学校教材)を見ますと、プランター栽培というのも農林漁業体験の一例としてあげられておりますので、家庭菜園なんかも農林漁業体験に含むとっていただいでよろしいと思います。

議長(桑野委員)

ここの部分については、他にも迷う方がいらっしゃると思うので、説明が必要かもしれませんね。

青木委員

この例に、種まきなども出てきますけれども、家庭菜園でも種まきをして育てるといこともするので、完全に農業体験と言えば体験ですよ。ですので、その辺がアンケートを全部やる中で、一番迷ったところですよ。

事務局(桜井)

例示に、もう少し身近な体験なども入れるように分かりやすく工夫させていただきます。

議長(桑野委員)

貴重なご意見ありがとうございます。では、食生活改善推進協議会の渡邊委員いかがでしょうか。

渡邊委員

私もこのアンケートをやってみました。本当に膨大な量で、これを高齢者の方ができるかなと思ったので、近所の方を2人ほど呼びして、お茶を飲みながらやってみました。そうしたら、10問ほどで嫌になってしまって、読むのも大変になったとおっしゃっていました。

私たち協議会でもアンケートを出しますが、10問ぐらいのアンケートでも、ほとんどの方が白紙とか、いい加減に○をつけている状況です。ですので、読み上げながら、設問の説明をします。そのようにするとやってくれますが、自分で読んでやるというのが、75歳、80歳以降の方になるとできないと思います。

協議会のアンケート結果を200枚ぐらい見ましたが、自分でやっていただいた方の場合、4割くらいの方がやっと半分できているかなという感じでしたので、この中間評価アンケート調査の回答がしっかりできるかということをご心配しました。今回、こちらのアンケートを自宅で試しにやっていただいた方たち

にも都度、「ここはどういう風に答えたらいいか」など聞かれました。先ほど青木委員もおっしゃったように、「うちでお野菜を作っているけど、これもいいのか。」ということも聞かれましたので、やはりちょっと厳しいかなと思いましたがいかがでしょうか。

事務局(桜井)

ご意見ありがとうございます。

前回、健康爛漫計画との合同調査では、設問数が100問ぐらいありましたので、だいぶ絞ったと思っ
てはいたものの、やはり目標の評価に必要な設問以外にも、聞きたい部分がありまして、目標に係る20
の設問数の倍くらいになってしまいました。ですので、もう少し設問数を絞った方がよろしいということ
ですよね。今回、中間評価となりますので、目標に対する評価をするという部分に重点おいて、もう一度
見直したいと思います。

渡邊委員

ありがとうございます。

先ほどからお茶の話も出ていますが、私もお茶の推進を小学校でやっております。今年度は、学区の
小学生が地域を探検しようということで、地域を回って最後に私のうちに来るという催しがありました。
食育のクイズを出すなど楽しく過ごすってということで、3種類のお茶を用意して、子供たちに試飲をして
もらいましたが、1度も緑茶を飲んだことがないという子が一人いました。やはり子供より、「家庭」で緑
茶を飲む習慣をつけることが大切なのかなと思いました。ほうじ茶や玄米茶など、初めてこのようなお
茶の種類があることを知ったということでしたので、お茶の効能や効果をイラストで描いた資料を子供
に渡して、「これをお家に持ち帰っておうちの方に見せて、お茶にはこんなに良いことがあるから、これか
らぜひ飲むようにしてね。」と伝えました。私は、事あるごとに子どもたちにお茶を飲んでもらっています
ので、もっともっと飲んでいただきたいなと思います。

また、今抹茶が外国ですごく需要があって足りないということですので、粉末茶をお勧めしています。
お値段も抹茶に比べて半分以下で買えますし、手軽に飲めますので、ご家庭で急須がないですとか、茶
葉買って捨てるのが面倒くさいのであれば、ぜひ粉末茶を飲んでみてくださいと伝えてあります。それ
がだめでしたら、玄米茶を飲んでみてくださいと。玄米茶は、少しお茶漬けの香りがするといって結構子
供に人気があって、1番評判が良かったので。

議長(桑野委員)

アンケートについて、様々なご意見ありがとうございました。では、事務局は、再度考え直していただ
き、市民の皆さんに多く回答いただけたらと思います。では、杉浦委員お願いします。

杉浦委員

このアンケートは、自分で回答できる年齢なら良いのですが、6歳のお子さんが答えるとなると現実的
なんでしょうか。これは、先ほどの説明ですと郵送で来るようですが、例えば小学校1年生のお子さんが
対象だった場合、受け取るのは保護者だと思います。そうすると、対象のお子さんに対して丁寧な説明
ができないと、現実問題として小学生は答えられないと思います。この内容は、65歳以上の方が対象と

おっしゃいましたが、同じ内容を小学生が答えるのかというのは、とても現実的ではないと思いました。設問数も減らしてあげないと答えないと思うので、最初から小中学生向けのものについては、不要な設問を削除した方が良いのかなと感じました。

もう一点、抽出するデータの年齢区分について、先ほどから学校教育の話があがっているかと思いますが、そのすると小中学生の年齢区分をきちんと分ける必要があると思います。問4の『令和8年4月1日時点の年齢を教えてください』とありますが、4月1日時点で小学1年生だと、下の問9で『小学何年生ですか』と答えるところで学年のずれが生じないかという疑問がありました。

また、この調査票を送るのは、住民票がある方でしょうか。例えば、静岡大学でいうと住民票を移していない学生がほとんどですので、市内に住んでいる学生には届かないですし、逆に他都市に住んでいる学生あてにこの調査票が届くとすると、18歳からの4年間分の年齢区分が非常に曖昧になると思いました。

また、先ほど校長先生もお話していただきましたが、小中学校は、給食センターから給食がきちんと届きますし、割と食育が行われていると思います。そうすると、データ抽出の年齢区分が13～19歳となっていますが、これだと中学生から高校生、大学生まで入る年齢層になってしまいますので、データが意味を持たないのではないかと思います。食育がしっかりされている小中学生と、そうでない高校生以降の差が明確に出てこないと思います。一番問題なのは、高校がどのような形で食育をしているのか、高校はお弁当なので、どういうものを食べているのかが問題になりますし、その後、高校を卒業してから一人暮らしをする段階で、その子たちがこれからどのように自分で食を選んでいくのかという教育が重要かと思うのですが、この年齢区分ではすべてがぼやけている。大学生になって独り立ちした子たちもぼやけてくるので、国の第5次の反映が上手くされず、余計にぼやけていってしまうように感じました。

議長(桑野委員)

この点に関しまして、事務局いかがでしょうか。

事務局(大勝)

まず、アンケート対象者につきましては、住民基本台帳の無作為抽出をかけるという方式を取らせていただく予定ですが、委員がおっしゃる通り、確かに大学生においては住民票を動かさないで市内に在住している方もいるのは事実ですので、その部分も含めて一旦持ち帰らせていただいた上で、今後の対応等考えたいと思います。

また、その年齢区分について、確かに13歳～19歳と広がっておりますので、大学生による回答になるかもしれないですし、逆に高校生が少ないということも可能性としてはあるかと思います。そこも踏まえた上で、一度事務局で持ち帰らせていただいて、一旦整理をさせていただければと思います。

議長(桑野委員)

ありがとうございました。皆さま貴重なご意見を本当にありがとうございました。以上で議事は、終了となります。

続いて次第4 報告に移ります。市の食育事業について、事務局お願いいたします。

事務局

(資料3-1について説明)

○「野菜摂取量測定会」について

- ▶ 昨年度より静岡県立大学に協力いただきながら共催という形で実施している。共催実施のため、会場の提供の他、啓発品の購入、当日のスタッフ提供などを大学側にご負担いただいた。
- ▶ 第1回から第2回にかけての学生の意識変化、行動変化を観察したところ、普段の野菜摂取量、ベジメータの測定結果ともに改善していた。イベントに参加したことで、野菜摂取に対する学生の意識変化、行動変化を促すことができた。
- ▶ 一方で、第1回実施後から第2回実施までに「野菜摂取量が増えなかった」と回答した学生の理由として「経済的な負担」や「特に理由はない」と回答した学生が多かったことから、栄養バランスよりも「安さ」を優先する傾向にあることや、健康課題は中年期以降の問題で、すぐに自分には関係ないという「無関心」などの傾向が見られるなど、若い世代特有の理由があることがわかった。

(資料3-2について説明)

○受講した生徒の96%が「郷土料理に対する興味関心が高まった」と回答し、内65%が「今後郷土料理を積極的に食べるように意識しようと思った」と回答しており、地域に根付いた食文化継承のきっかけづくりとして一定の役割を果たせた。

○普段の食生活の様子を聞いたところ、茶葉から入れた緑茶を飲む頻度は「ほとんど飲まない」が6割を超えていたが、試食時に茶葉から入れた冷茶を提供したところ、「今後は飲んでみようと思う、どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が88%となったことから、実際にお茶に触れ合う機会を増やすことが若い世代にお茶を飲む習慣普及促進につながるということがわかった。

議長(桑野委員)

ご報告ありがとうございました。全体を通して何かご意見がございましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見がないようでしたら、以上で本日の全ての議事は終了します。それでは、進行を事務局にお返します。

事務局

桑野議長、委員の皆様方、長時間にわたり、ご審議いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、「令和7年度 第2回静岡市食育推進会議」を終了させていただきます。本日は、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございました。今後とも静岡市の食育推進へのご協力をお願いいたします。

(閉会)